ＪＡ自己改革推進レポート（ＪＡ鳥取中央）１１月号

１．　中部農業みらい宣言

ＪＡ鳥取中央は、１０月２２日に大阪市で関西の取引市場を集め、トップ広報「第４５回中部農業みらい宣言」を行った。同ＪＡの栗原隆政組合長が、果実の高単価時代の御礼を伝えるとともに、野菜の産地戦略や国消国産について情報を発信。また果実、園芸販売額１０２億円へ向けた戦略を共に再認識し、栗原組合長の「ＪＡ鳥取中央秋冬野菜ガンバロウ！」の掛け声で今年度の後半戦の飛躍を誓った。

参加したのは、取引市場１６社と大阪本場青果卸売協同組合６社など計５０人。らっきょうやねばりっこの選果場への投資で精査基盤を拡充させていることやブロッコリーの栽培面積拡大に力を入れていることなど、１０品目の野菜について産地戦略を明かした。毎回行っている生産部紹介のコーナーでは、長芋生産部を紹介。遠藤忠充部長が、産地の歴史と今月から始まるねばりっこの出荷の意気込みなどを語った。

栗原組合長は「果物が美味しい産地で安全安心新鮮な鳥取野菜が多くの鳥取ファンに支えられている事を実感した。次年度に向けて新鮮さとみらい宣言産地として自信をもって更なる振興に取り組みたい」と話した。

２．　大阪　天神橋筋商店街でベジタブルフェアを開催

ＪＡ鳥取中央と鳥取県関西本部は、１０月２３日に大阪市の天神橋筋商店街で鳥取県産の秋冬野菜や果物を販売する「食のみやこ鳥取県・ＪＡ鳥取中央ベジタブルフェア」を開催した。ＪＡ鳥取中央管内の農畜産物は関西市場でも広く認知されており、スイカの後作に多くの野菜、花きを栽培している。これから秋冬野菜が本格化するなか、その認知度を高めるため、初めて野菜に特化したイベントを実施した。

当日は、白ネギやブロッコリー、小松菜やほうれん草などの葉物野菜や秋果実、ビリケンさんに奉納した「星空舞」などを販売。会場は、たくさんの人で賑わい、１６時までの予定が１３時３０分には完売してしまうほどの盛況ぶりだった。

大阪府高槻市からの来場者は「鳥取県産は新鮮さが魅力。今後鳥取県産を選ぼうと思うきっかけになった」とバッグいっぱいに買い込んでいた。農産部の木下拓也部長兼販売課長は「スイカと同じ土地で、同じ人が作った美味しい野菜を知ってもらい、本格化する秋冬野菜もぜひ味わってほしい」と話した。

３．　ＪＡ鳥取中央オリジナルＣＭ【秋冬編】放映開始

ＪＡ鳥取中央は９月１日から、オリジナルＣＭの秋冬編の放映を開始した。同ＪＡでは今年の５月から管内の農畜産物をＰＲする独自のＣＭを作成している。朝の食卓のイメージで制作した春夏編に対し、秋冬編はすき焼きのカットを入れるなどして夕食らしい映像で管内の農畜産物のおいしさを訴求する。子育て世代の主婦層をターゲットに消費誘導を図り、有利販売につなげていく。来年の１月末まで「ＴＳＫさんいん中央テレビ」と「日本海テレビ」の様々な番組内で放映される。

ＣＭは「すべての食には、愛と音がある」というコンセプトのもと、収穫や調理の音にスポットを当て、視聴者の五感に訴える演出をしている。今回は、白ネギやチンゲンサイの収穫の音から始まり、長芋「ねばりっこ」をすりおろす音、特産の梨「二十世紀」の皮をむく音、最後に鳥取和牛と三朝神倉大豆の豆腐を入れたすき焼きの「ぐつぐつ」とした音などを高性能マイクで集音した。また、ブロッコリーをカマンベールチーズと一緒に焼き、チーズフォンデュ風にして食べるレシピも新しい食べ方として発信している。

同ＪＡの農産部、木下拓也部長兼販売課長は「ＪＡ鳥取中央産農畜産物の『旬の音』が『美味しさ』となって消費者の皆様の五感へ響かせることができたらと思う」と話した。

以上